

2024年（令和6年） 8月 14日 水曜日

デーリー東北 10・11面 掲載

保護者のための

Uターン セミナー

Uターン就職の不安や疑問を解消しましょう!

子どものUターン就職を希望する保護者向けのセミナー&トークセッションが7月21日、八戸市のデーリー東北ホールで開催されました。八戸商工会議所、八戸地区雇用対策協議会、八戸市、デーリー東北新聞社が主催。参加者は、子どもとの向き合い方や、最近の地元就職事情、行政による支援制度などに理解を深めていました。当日の内容を詳報します。

企画・制作/デーリー東北新聞社 地域ビジネス局

基調講演

井上 丹氏

子どものUターン就職を後押しするため、親にはどのような心構えが必要でしょうか。八戸学院大学地域経営学部准教授で、同大学就職支援委員長の井上丹さんがアドバイスしました。



地域の魅力を子どもにも伝えて

私は高校卒業まで、青森市の浅虫地域で過ごしました。県外の大学に進学し、大学院修了後はリクルート社に就職。同社で高校生、大学生と関わる部署で働いた経験を生かし、現在は八戸学院大で学生と共に地域経営を研究しています。同時に、息子と浅虫の祭りや自然を楽しみながら地域活性化にも取り組んでいます。私自身もそうでしたが、たとえ県外に出ても、子どもの頃に地元で楽しく過ごした経験は、将来Uターンにつながる大きなきっかけになるのではないのでしょうか。

多数の若者が、進学や就職というタイミングで県外転出を望むのは日本のどの地方でも同じです。私は多くの地元高校生、大学生に、なぜ県外に出たいのか聞いてみました。すると一言目には「遊ぶところがない」「商業施設がない」「何も無い」。要するに、この地域には魅力がないと感じているのです。

さて、八戸市は昨年度、小学校5年生〜高校3年生を対象に「若者意識調査」を行いました。その中の「地元のことについて、誰から情報を入手しますか(人の場合)」という問いに対して、「親」という回答が8割を超えています。

保護者の皆さんは子どもに、地域の魅力を伝えていきますか。「八戸には何もない」と、ネガティブなことを話していませんか。住んでいる地域のことを、よく知っていますか。子どもはもちろん保護者も、地域で生き生きと活動している人たちについて知ると、「この地域は楽しい」という考えに変わっていくかもしれません。

そしてできれば高校生、大学生には、実際に地域で暮らす人の働き方や生き方を直接聞く経験をしてほしいです。そうすることで地域に対して当事者意識が生まれ、一度県外に出たとしても、「いつかは戻って恩返ししたい」という気持ちになるでしょう。当然、地域には魅力もあれば課題もあります。それに対して前向きに共感できれば、きっと地域で自分らしく働き続けられると思います。

